

北ア 黒薙川北又谷

田邊

【日時】 2006年8月12日(土)～15日(火)

【メンバー】L田邊、小暮、石間

1日目(小暮記)

陰谷のイメージのある黒部川。この夏は黒部川黒薙川の支流である北又谷へ向かうことになった。柳又谷に比べて優しいという評判どおり滝と河原が適度に現れる素晴らしい渓谷であった。

現在、北又谷へは越道峠経由で山越えてダムの上から入渓するのが一般的なようだ。小川温泉から先はマイカーは入れないので、タクシーで越道峠へ向かう。越道峠からの踏み跡がすぐにわからずうろうろしてしまったが、よく探すと広場の上からした道が続いていた。しばらくは明瞭だった道も進むにつれて分かりにくくなってしまふ。道を探しながら進んでいくと、ゴロゴロという雷。嵐の予感。大雨の降りそうな天気の中、沢に向かってアプローチするなんてとても嫌な気分だ。暗い雲は次第に空を覆い雷鳴と共に大粒の雨が降ってきた。あわててタープを張って様子を見る。まさしく土砂降りだった。

下流部は泳ぎもあるので、増水でこのまま入渓できずに帰るのかと思うと気が滅入る。幸いなことに一時間ほどすると雨も止んできたので、とりあえず沢に下りてみることにする。稜線から下降する枝沢は、一番ゆるそうな一番右の沢から降りて行く。雨のためかぐずぐず状態で、急な沢を下るのは気を使ったが、特にロープを出すこともなく本流に下りることができた。本流は予想通りコーヒー色の濁流となっていた。どうしようかとしばらく様子を見るが、絶望的という水量でもないので恵振沢出合を目標に進



むことにする。少し進むと右岸から左岸に渡渉する必要があり、流されそうなので末端交換三角法を使って流れに飛び込んで泳ぎわたる。結構時間がかかってしまった。

その先、へつりながら進むと、現れたのは大量の濁流を飛ばす魚止滝だ。水量が少ない時は落ち口の右側をトラバースして越えることも可能らしいが、とても行く気がないので左岸の急な斜面から巻く。高巻きも悪く、急な崖を灌木に掴って登るが、いつまで登っても傾斜が緩くならない。仕方なく灌木伝いにトラバースして魚止滝の上の滝もまとめて越え、急なルンゼから沢に戻る。続いて大釜淵だが、ここもすごい水量だ。泳いで滝に取り付こうという気も起こらない。右岸の方が巻きやすそうだが、右岸には渡渉しなければならない。渦巻く大釜にロープを出して、末端交換三角法と泳ぎを駆使して渡渉することにする。ここは石間さんが全力のクロールで突破する。渡渉してからは滝の右岸を巻き、懸垂して滝上に出たら恵振沢出合はすぐであった。何とか目標の幕営地までたどり着けてよかった。短い距離であったが水量が多くて苦勞した一日だった。

2日目（田邊記）

今日は天気予報で夏らしい暑い一日になることを伝えていたので思う存分、水と戯れることができそうだ。まずは又右衛門滝からであるが、ここは空身で左岸壁をなんとか行けそうに見えた。ただ、昨日のにごりは消えたものの水量が多いこともあって壁への這い上がりが苦勞しそうなことと、登った後の荷揚げを考えると時間がかかりそうなこともあって、あきらめて右岸ルンゼから巻いて最後は懸垂30mで降りた。

その後は延々とゴルジュが続き、泳ぎとへつりを駆使しながらどんどん進んだ。そうこうしているうちに上下2段になっているの巨大な雪渓が現れた。どうりで水が冷たいわけだ。下段は上から越え、上段は下をくぐって抜けた。その先もゴルジュが続いている。

廊下状の水が白く泡立つ急な流れのところをへつりながら越えると、次のへつりで行き詰った。ここは流芯を飛越えて反対の壁を這い上がるしかなさそうだ。そんなことを考えているうちに小暮君が自分で打ったハーケンが抜けて流れの中に落ちてしまった。幸い落ちる前にお助けロープを渡していたのでなんとか流されずにすんだ。ゴルジュ帯を抜けると流れが穏やかになり、沢が川原状になった。トロ場もあって気持ちのいいところである。落ち着いてきたので竿を出しながらのお楽しみタイムとした。白金沢を過ぎるとゴルジュの中に白金滝が現れる。ここは登れそうにないので右岸をまいて、漏斗谷出合に降りる。その先は再び、穏やかになるがそれをつかの間ゴルジュの中に大きな雪渓が現れた。

1つ目の雪渓は下をくぐって、雪渓の途中のルンゼを登って巻いた。滝が2段になっている先を懸垂で降りた。景勝な三段の滝が見当たらないのでどうもその上に出たようだ。その後、雪渓を2つほどくぐった先で延々と続く長い雪渓が現れた。100m近くはあるだろうか。ここは左岸のルンゼから巻いて、雪渓の途中に懸垂で降りた。雪渓の最後は難なく沢床に降りることができた。

C S 3 m滝を右壁から越えると黒岩谷の出合であった。竿を出しながら進むと川原になり、右岸に雪渓が消えたあとだろうか、テントが10張りくらい余裕で張れるような平らで寝心地の良さそうな幕場が現れた。場所はサルガ滝のすぐ手前で時間もちょうどよい。ツェルトを張ってすぐにタマズメに出かけるがなぜか全然あたりがなかった。

3、4日目（石間記）

朝一番でサルガ滝。水が冷たい。田邊さんは泳いで探りに行くがぱっと見、きつそうだし水に入る気がしない。右から巻くが今までのように悪くなく難なく巻くことができる。もう、核心は抜けたなあとと思う。その後は河原が続く。

吹沢谷をすぎたあたりで昨日近くでテントを張っていた釣り人二人と出会う。どうやら黒岩谷を下って入渓したらしい。挨拶をすると快く先をゆずってくれるが申し訳ないのでそこで30分ほど休憩する。ゆっくりしたつもりであったが歩き始めるとすぐのゴルジュっぽい所で追いついてしまう。お二人ともフライでひゅんひゅんと竿を振り、ばんばん釣る。そしてけっこういい型をキャッチアンドリリースする。これでは昨日幕場近くであたりがないはずである。ここでは抜かせてもらおう。とたんに魚影が濃くなる。田邊さんが手づかみでよい型のイワナを捕まえる。完全にのんびりモードである。

いくつかの支流を見送るとだんだんと雪渓が現れてくる。奥が暗く初めは躊躇するが次々に出てくるとだんだん慣れてくる。このあたりは沢自体がなだらかなので中も難しくない。そう思っていくつかくぐる。次に入った雪渓は長い。先が薄明るいから今まで同様にすぐに出るかと思いきや、すべて横の隙間の明かりである。そのうち泳ぐ箇所が出てくる。冷たい。。。もう一度。先行きは見えないしこんなのが何度も出てきたらたまらないと思う。少し歩いてふと振り返るとさっきまで少し後ろにいた小暮さんがいない。笛を吹いてみるが反応なし。雪渓の上に登ったのかなと思いつつもあの冷たい水を泳いで心臓でも止まっていたらまずいと思いつつ戻ってみる。最後に小暮さんを見たところまで行くがないのでやはり上に行ったかと笛を吹きつつもう一度進み適当なところで雪渓の上へ登り無事合流。上では笛の音が聞こえていて吹き返していたらしい。上がってみると延々と雪渓が続いている。やはり上がって正解であった。雪渓の周りは山菜が盛りだくさんであった。今度は雪渓の上り下りを繰り返す。側壁をダブルアックスで登ったり、スノーボードで懸垂下降をしたりと盛りだくさんであった。このあたりの滝は雪渓に埋まっていたのか基本的に難なく登れた。

二俣を分けるとやっかいな雪渓はぐっと減るが、今度はいやらしい小滝が続く。コケでぬるぬるである。最後はいやらしい草付と藪を越えて登山道へ。犬ヶ岳の一つ手前と二つ手前のピークの鞍部に出るつもりだったが水流に誘われて二つ手前のピークの方へ出てしまう。考えてみれば鞍部の方が水量が少ないことも当然あるなあ。...

登山道を犬ヶ岳まで何とか登り返し、握手。小屋の前で山菜の天ぷらと炒め物、イワナのムニエルを食べる。めずらしいらしく周りの登山者の質問攻めに合う。なんだか日ごとに夕食が豪華になってくる。

【地図】 小川温泉

【行程】

- 8/12 越道峠(8:15)～雨宿り(9:30/10:30)～下降の沢(11:05)～北又谷(12:15)～魚止滝(14:00)～恵振谷出合c1(16:30)
- 8/13 c1(6:25)～ミズカミ谷出合(10:00)～漏斗沢出合(12:55)～黒岩沢出合(15:35)～サルガ滝手前c2(16:10)
- 8/14 c2(7:10)～吹沢谷出合(7:55)～二俣(11:00/25)～上の二俣(12:30)～稜線(15:50)～梅海小屋c3(16:20)
- 8/15 c3(7:20)～下駒ヶ岳(9:20)～白鳥山(10:40/11:05)～坂田峠(11:35)

